

第8回近畿周産期精神保健研究会 ～ プ ロ グ ラ ム ～

- テーマ：『親になるとは』
- 会 期：2024年2月23日(金・祝) 10:00～16:00 (現地のみ、定員120名)
2月24日(土) 9:00～17:00 (現地+WEB開催)
- 会 場：JEC日本研修センター 心斎橋 2F コンベンションルーム
- 会 長：宮川 祐三子 (地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 看護部長)

【1日目 2月23日(金)】

- 10:00～10:10 開 会 会長挨拶
- 10:10～12:00 周産期こころのケアワークショップ (周産期こころのケア研修班企画)
※本プログラムは、アドバンス助産師 CLoCMiP®選択研修に該当します。
※研修証明書を発行します。

本、ワークショップは、今回のテーマに沿って、それぞれの臨床体験と専門性に基つきながら、当事者である妊産婦さんとそのご家族の心を理解し、私たちなりの温かい心あるケア・支援を見出すことを目的とした体験型の研修プログラムです。

テーマ：お母さんになりたいのに・・・

～流産・不育症を体験された妊産婦さんにご家族の心のケア～

ミニレクチャー：庵前美智子 (IVF なんばクリニック認定遺伝カウンセラー)

三木 有希 (鈴木クリニック臨床心理士)

コメンテーター：岡田由美子 (たかみやこころのクリニック臨床心理士)

周産期では、いつも円満な妊娠出産を体験される妊産婦さんばかりではありません。母親、父親になりたいと望みながら、あるいは健康なわが子を授かりたいと望みながら、その願いが叶わない体験をされる方も少なくありません。流産や死産、不育症で満期まで妊娠を継続できない妊産婦さんとお会いすることも少なくありません。妊産婦さんたちにとって、思い描いた妊娠出産を得られなかった体験は、健康な赤ちゃんを喪う悲しみや体と心の痛みだけでなく、その後もずっと不安や自責の念などを抱えて過ごされることにもなります。それはご家族の関係性にも影響を及ぼすこととなります。この周産期のデリケートな妊産婦さんとその家族を含めた体験に、私たちはいかに寄り添って支援できるのでしょうか。ミニレクチャーとディスカッションをとおして、どのように寄り添い支援していけばよいかを今一度考えたいと思います。ご関心をお持ちの方は、是非ご参加ください。

12:00～13:00 休 憩

- 13:00～16:00 周産期の子どもと家族支援に向けた体験型多職種カンファレンス
※本プログラムは、アドバンス助産師 CLoCMiP®選択研修に該当します。

テーマ：みんなで考えよう！

「親になる・家族になるとは？」

～心理社会的に準備ができないままケアが必要な次子を迎える若年事例から～

司会・進行：太田絵里子 (助産師)、岩本寿実子 (心理師)

コメンテーター：永田 雅子 (名古屋大学心の発達支援研究実践センター教授)

想定事例：家族からの支援を得にくい若年カップルに、ケアが必要な次子が誕生。同胞の育児に加えて、次子にも哺乳のたびにケアが必要となり、他人に頼り慣れていない母のストレスは・・・。
(当日は、事例を提示しながら、グループで検討していただきます)

1日目の午後からの本セッションは、事例について多職種で検討する体験型のカンファレンスです。ワールドカフェの形式で、誰もが自由に事例についての考えや想いを語り合い、周産期の親子にとってより良い支援とは何かを考える機会になることを期待しています。施設・職種を超えて一緒に事例について検討して、各職場に気づきと学びを持ち帰っていただけたら幸いです。職場から多職種で奮ってご参加ください。

16:15～16:45 役員会

- 17:00～19:00 懇親会 (参加費：5,000円)
吉川よしひろ氏によるチェロ演奏がごあります。皆様ご参集ください。
⇒ http://celloaco.music.coocan.jp/index_j.html



【2日目 2月24日(土)】

9:00～9:30 **会長講演** 「親になるとは～助産師の位置より～」
座長：窪田 昭男（月山チャイルドケアクリニック 名誉院長）
演者：宮川祐三子（大阪母子医療センター 看護部長）

9:30～10:20 **一般演題 1**
座長：遠藤 誠之（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
生命育成看護科学講座母性胎児科学 教授）
吉田 佳織（大阪母子医療センター 小児専門看護師）

1. 当院における貧血と周産期メンタルヘルスとの関連に関する後方視的検討
片山愛寸香（近畿大学病院 看護部）
2. 妊娠高血圧症候群を抱えた褥婦の血圧の推移と育児の関連性について
山口 玲菜（大阪母子医療センター 看護部）
3. 当院におけるハイリスク妊婦への取り組み、
またその抽出方法に関する後方視的検討
相澤 悠貴（近畿大学病院 看護部）
4. 周産期領域における助産師による認知行動療法の実装に向けた
オンラインラーニンググループの評価
岡津 愛子（日本赤十字豊田看護大学 看護学部看護学科）
5. 外国人褥婦の不安やニーズと関わり方について
合田 亜美（大阪母子医療センター 看護部）

10:20～11:20 **一般演題 2**
座長：望月 成隆（大阪母子医療センター 新生児科医師）
高倉 恵子（大阪急性期医療センター 看護師長）

1. 周産期母子医療センターに勤務する助産師のキャリア支援についての一考察
高倉 恵子（大阪急性期医療センター 看護部）
2. コロナ禍で整備された新生児集中治療センターと病棟との連携
～親へのストーマケア指導を通して～
吉川由希子（金沢医科大学 看護学部）
3. NICU 退院後の支援に向けた多職種カンファレンスを継続しての効果
竹内 茜（大阪母子医療センター 新生児棟）
4. NICU における多職種と行う倫理カンファレンスの取り組み
岩田 紫乃（大阪母子医療センター 新生児棟）
5. ACP（アドバンス・ケア・プランニング）～当院新生児科における取り組み～
吉田美寿々（大阪母子医療センター 新生児科）
6. 在宅移行困難となった13トリソミーの一例を通じて
ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の有用性を考える
西尾 尚記（大阪母子医療センター 新生児科）

11:20～11:30 休 憩

11:30～12:15 **特別講演 1** 「妊娠期から考える親になるということ
～虐待に至る道を閉ざすために～」
座長：側島 久典（日本周産期精神保健研究会理事長、埼玉医科大学総合医療センター小児科客員教授）
講師：宮本 信也（筑波総合クリニック小児科、筑波大学名誉教授）

